

## アクセルの誤操作による自動車事故

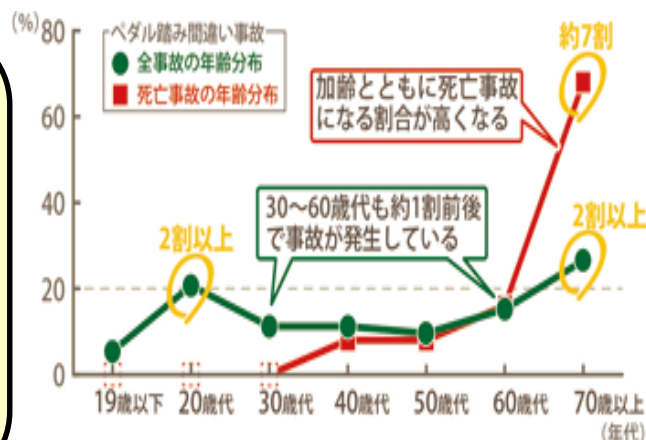
最近、テレビや新聞でよく取り上げられるアクセル操作の誤りによる自動車事故が増えています。これは主に高齢者の運転比率が高まっていることも一因ですが、原因はそれだけではありません。

弊社が実際に取り扱った過去の事案から、事故の実態を検証してみました。

### ◇ ペダルの踏み間違いの事故は高齢者だけではありません！

2017年の事故を年齢別(右表)で見ますと70歳以上と20歳代が2割を超えています。しかし、30歳～60歳代もそれぞれ1割程度発生しており、ペダル操作誤りは高齢者特有の問題とは言えません。

但し死亡事故で見ますと、70歳以上が全体の約7割を占めており、高齢者によるペダルの踏み間違い事故は、重大事故に繋がる危険性が非常に高いことが伺えます。



ペダル踏み間違い全事故・死亡事故の2017年の年齢層別分布  
(公益財団法人 交通事故総合分析センター データを抜粋)

☆ 下表は最近弊社が実際に取扱ったアクセル、ブレーキの操作ミスによる事故です

	事故日	運転者年齢	場所	被害	保険金(千円)	事故原因・事故状況
①	2018年2月	70歳代	駐車場	建物、ショーケース、買物客	4,600	バックの際、アクセルを踏み込みすぎて店舗に衝突。店内の買物客にケガを負わせた
②	2018年2月	60歳代	料金所	車両	2,300	料金所にて一旦停止しかかったが、アクセルを踏み込み、前車に追突
③	2018年9月	60歳代	駐車場	建物	1,700	ブレーキを踏もうとしたが、誤ってアクセルを踏み込んでしまい、前進で建物に衝突
④	2017年5月	40歳代	マンション玄関前	シャッター	1,300	ブレーキを踏んで停止していたが、ブレーキから足が離れ、マンションのシャッターに衝突
⑤	2019年5月	90歳代	駐車場	建物	600	バックの際、車止めを超えて建物に衝突

①の事故は、「店舗の壁を突き破り、店内に侵入。ショーケースを損壊させ、さらに買物客にも接触してケガを負わせてしまった」事案です。

⑤の事故は、「バックでアクセルを踏み込み過ぎてスピードが出てしまいパニックに陥り、更に強くアクセルを踏み込んでしまった」ことによる事案です。周囲に人がいなかったため、人身事故には至っていませんが、もし仮に人がいたら重大事故に繋がるような事案でした。往々にして、運転者は慌てることで更にアクセルを踏込んでしまう傾向があるようです。



## 【ペダルの踏み間違いはいかにして防止すればよいのか？】

### POINT 1



アクセルからブレーキへ踏みかえる習慣をつけましょう！

アクセルからブレーキへペダルを操作する時、床に踵をつけたまま足先だけを動かす操作をしていませんか。ペダルを踏み間違えるリスクがあるので、ブレーキをかける時は、踵を床から離してアクセルペダルからブレーキペダルへ確実に踏みかえる習慣をつけましょう。

### POINT 2



渋滞中は、常にブレーキペダルの上に足を置き、ゆっくり発進させましょう！

渋滞中はつい気を抜いてしまい運転操作から注意が逸れやすくなります。オートマチック車はアクセルを踏まなくてもシフトレバーの働きでゆっくりと動きます(クリープ現象)。渋滞中も気を抜かず、足を常にブレーキペダルの上に置き、クリープ現象を利用してゆっくり進みましょう。

### POINT 3



バックでの駐車時には、目視でシフトレバー®への切替を確認し、ブレーキペダルに足を乗せたままゆっくりと発進させましょう！



駐車時には、駐車スペースの直前でブレーキを踏み、車を一旦停止させて周囲の安全確認をしましょう。足はブレーキの上に置いたままクリープ現象を利用してゆっくりと車を発進させましょう。シフトレバーを操作する時もブレーキを踏み車両を一旦停止させ目視でギアの位置を確認。駐車スペースを含め周囲の安全確認を行ったうえで車を発進させましょう。

### ～終わりに～

近年の自動車の機能に関わる技術の進歩は著しいものがあります。技術の進歩によって、今後事故の減少や被害の軽減に繋がって行くことと思います。しかし、主体となる運転者はわれわれです。無くならない飲酒運転やあおり運転に巻き込まれないためにも、心にゆとりを持って安全運転を心掛けましょう！

以上